



「地域の文化継承活動に関するアンケート」 調査報告 〈第1回〉

弊財団では日ごろの活動を通じて、郷土文化の「次世代への継承」が地域の文化振興にとって重要な課題と認識しています。今般、このテーマで小中学校の教育現場における「地域の文化活動」について実態を把握しようと考え、令和2年5月にこのアンケート調査を実施しました。本誌では、結果の概要を2回に分けてご紹介します。

- 〈第1回〉
1. 調査の目的
 2. 調査概要
 3. 「地域の文化活動」の実施状況
 4. 「地域の文化活動」に対する外部指導者の関与
 5. 「地域の文化活動」の運営上の課題
 6. 「地域連携」の活動に期待する主な意見
 7. 「地域の文化活動」の事例
- ※本号「地域文化」No.135に掲載

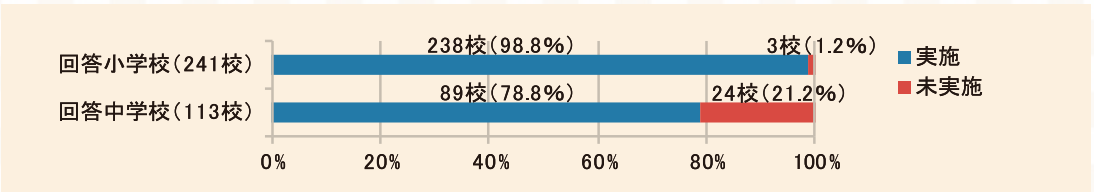
- 〈第2回〉
1. 「地域の文化活動」の実施内容
 2. 上位で特徴ある項目の具体的な内容
 3. 今後に向けて
- ※次号「地域文化」No.136号に掲載予定

1. 調査の目的 今回の調査は、長野県内の公立の小中学校を対象とし、郷土文化・伝統文化の学習状況とその内容、運営上の課題などを調査項目として設定した。小中学校の教育現場における「地域の文化活動」について長野県全域の実態把握を目指すとともに、調査結果を踏まえた課題抽出を目的とした。

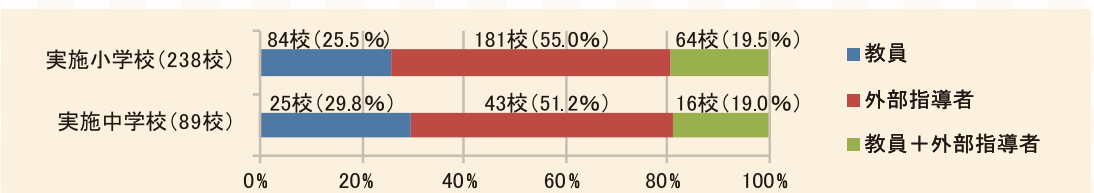
2. 調査概要 「教育要覧（令和元年度）」掲載の公立学校全544校にアンケートを郵送し、354校より回答の協力を得ることができた。調査用紙の回収率は65.1%となった。

調査対象	「教育要覧」掲載の公立小中学校 全544校（小学校358校・中学校186校）
実施期間	令和2年5月15日～5月31日
回答のあった学校	354校（小学校241校・中学校113校）
調査用紙の回収率	65.1%

3. 「地域の文化活動」の実施状況 小中学校の教育現場における「地域の文化活動」の実施状況は、全回答354校のうち実施327校（92.4%）、内訳は小学校で回答241校のうち実施238校（98.8%）、中学校で回答113校のうち89校（78.8%）と非常に高い実施率であった。「地域の文化活動」の重要性は学校・地域で広く認識され、次代を担う子供たちのために期待を持って進められている。

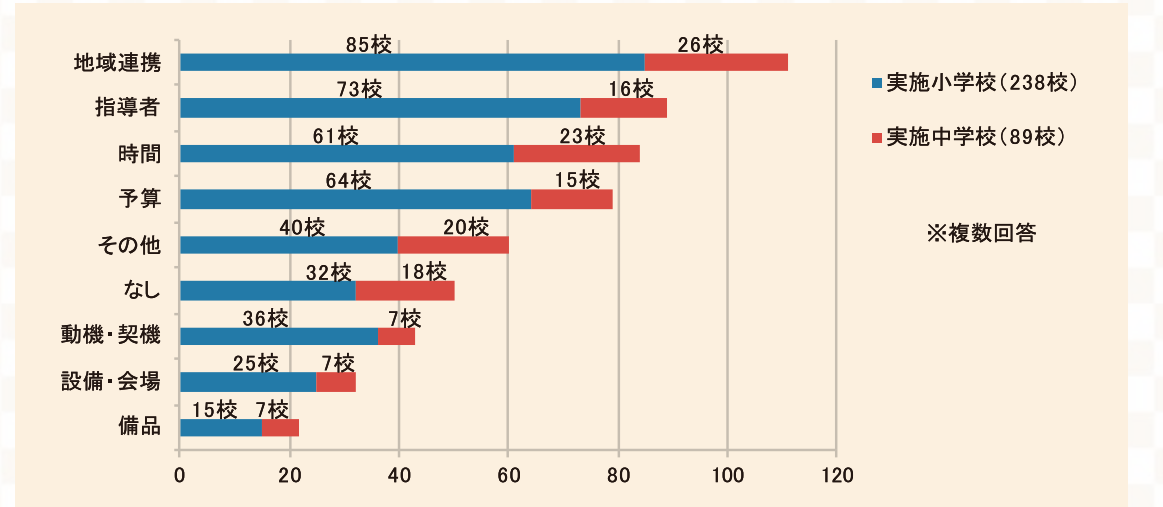


4. 「地域の文化活動」に対する外部指導者の関与 小中学校の教育現場における「地域の文化活動」では、教員のみで実施された活動件数の割合は小学校25.5%、中学校29.8%である。教員以外の外部指導者の関与が活動件数の過半を占めており、「地域の文化活動」のなかで重要な役割を担っていることが窺える。



5. 「地域の文化活動」の運営上の課題

「地域の文化活動」を実施している小中学校での運営上の課題として最も多かった回答項目は、「地域連携」であった。概括的に分析すると、回答があった多くの小中学校では、「地域の文化活動」において「地域連携」への期待は大きいものの、外部指導者の関与や人選、活動実施にあたっての段取りの負担や時間の確保、少子高齢化による伝統文化の継承に対する不安など、様々な課題を抱えているといえる。



6. 「地域連携」の活動に期待する主な意見

以下のように、課題として最多になった「地域連携」に期待する意見が多く寄せられた。また、地域のコミュニティとの連携を望んでいるものの、外部指導者の関与には至らない小中学校も存在するようである。

- ・「地域ふるさと学習では地域の方々が講師として熱心に教えてくださりありがたい。このような地域とのつながりをさらに広げ、子供たちが地域に学ぶ機会が一層深くなることを願っている。」（小規模校）
- ・「地域の方々と連携しながら、ふるさとの良さを学ぶ「ふるさと学習」を進めたいと考えている。公民館やコミュニティ・スクールの枠組等を活用して、地域の連携を図っているが、それをさらに進めていきたい。」（大規模校）
- ・「地域の方が主体となってどんどん学校に入りこんでもらいたい。一方で学校としては授業時数の関係で時数は限られる。」（小規模校）

7. 「地域の文化活動」の事例

ふれあい伝承広場 ～上田市立傍陽小学校～

上田市真田町にある傍陽小学校は、明治6年に真田氏にゆかりの深い金縄山実相院に「金縄学校」として開校した歴史のある学校です。ここでは、長年にわたり地域と学校が一体となり、「ふれあい伝承広場」という活動が行われています。地域の文化や歴史を伝えるこの活動は、「育む会」、「ふれあい広場」、「長寿会」といった地域グループが学校を支えています。

昨年9月の「ふれあい伝承広場」は7つの分科会を開催し、「わら編み体験」「郷土料理（にら煎餅）づくり」や伝統的な「昔の遊び」などを通じて、「傍陽を愛し、誇りに思う気持ち」を一つの空間で共有しました。

地域の方からの働きかけにより地域連携はさらに広がり、平成29年12月からは、日常的なものに発展。昨年12月から2月は、2時限目の20分休み時間を使い、地域の皆さんと子どもたちが共に「傍陽の文化」に触れる時間を過ごしました。今年度はコロナ禍の影響で休止していますが、今後も活動のさらなる工夫・継続を計画しています。



※「地域の文化活動」の実施内容については、次号「地域文化」No.136にて報告します。